

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン カンサイイカダイガク 学校法人 関西医科大学									
フリガナ大学の名称	カンサイイカダイガクダイガクイン 関西医科大学大学院 (Graduate School of Medicine, Kansai Medical University)									
大学の位置	大阪府枚方市新町二丁目5番1号									
大学の目的	本学の知的資源を広く社会に還元し、地域社会に開かれた大学を目指すとともに、医学知識の普及、生涯学習の促進を図ることを目的に、広く学習の機会を提供し、地域社会に対する教育、研究、診療の各分野において教育機関としての社会的使命を果たす。									
新設学部等の目的	薬学・工学・理学・農学などの生命科学関連学科で学んできた学生を対象に、それぞれの分野における知識を基盤として、医科学分野の新たな知識を統合的に習得させ、医科学研究を实践することで、今後の多様な医学・医療関連の分野で活躍できる人材の育成を目指す。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	医学研究科 (Graduate School of Medicine) 医科学専攻修士課程 (Master's Program in Medical Science) 計	2年	8人	—年次人	16人	修士 (医科学)	令和3年4月 第1年次	大阪府枚方市新町 二丁目5番1号	【基礎となる学部】 医学部医学科	
			8	—	16				14条特例の実施	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	令和3年4月名称変更 大学院医学研究科博士課程医科学専攻→大学院医学研究科博士課程医学専攻 令和2年3月設置認可申請 リハビリテーション学部(100)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	医学研究科医科学専攻修士課程	講義	演習	実験・実習	計	30単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設分	医学研究科医科学専攻修士課程	24人 (24)	4人 (4)	1人 (1)	0人 (0)	29人 (29)	0人 (0)	55人 (55)	
		計	24人 (24)	4人 (4)	1人 (1)	0人 (0)	29人 (29)	0人 (0)	55人 (55)	
	既設分	医学研究科医学専攻博士課程	74 (74)	57 (57)	149 (149)	151 (151)	431 (431)	- (-)	- (-)	
		看護学研究科看護学専攻博士前期課程	12 (12)	6 (6)	11 (11)	19 (19)	48 (48)	- (-)	- (-)	
		看護学研究科看護学専攻博士後期課程	12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	- (-)	- (-)	
		計	98 (98)	64 (64)	160 (160)	170 (170)	492 (492)	- (-)	- (-)	
	合計		122 (122)	68 (68)	161 (161)	170 (170)	522 (522)	- (-)	55人 (55)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計						
	事 務 職 員		285人 (285)	150人 (150)	435人 (435)						
	技 術 職 員		6人 (6)	19人 (19)	25人 (25)						
	図 書 館 専 門 職 員		8人 (8)	2人 (2)	10人 (10)						
	そ の 他 の 職 員		57人 (57)	47人 (47)	104人 (104)						
計		356人 (356)	218人 (218)	574人 (574)							
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
	校 舎 敷 地	37,400.49㎡	0㎡	0㎡	37,400.49㎡	運動場は校舎の隣接地にない。					
	運 動 場 用 地	㎡	8617.00㎡	0㎡	8617.00㎡						
	小 計	㎡	0㎡	0㎡	0㎡						
	そ の 他	㎡	0㎡	0㎡	0㎡						
合 計	37,400.49㎡	8617.00㎡	0㎡	46,017.49㎡							
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
		49,795.48㎡ (49,795.48㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	49,795.48㎡ (49,795.48㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体					
	18室	72室	57室	2室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)						
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数							
		医学研究科修士課程医科学専攻		25 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学院修士課程単位での特定不能なため、大学全体の数			
	医科学専攻修士課程	43,681 [4,034] (43,681 [4,034])	11,339 [8,842] (11,339 [8,842])	9,577 [8,158] (9,577 [8,158])	0 (0)	10,184 (10,184)	55 (55)				
	計	43,681 [4,034] (43,681 [4,034])	11,339 [8,842] (11,339 [8,842])	9,577 [8,158] (9,577 [8,158])	0 (0)	10,184 (10,184)	55 (55)				
図 書 館		面積	閲覧座席数		取 納 可 能 冊 数		大学全体				
		8735.79㎡	336		132,000						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
		272.76㎡	テニスコート3面 ゴルフ練習場								
経 費 の 見 積 び 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 び 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	※研究費等は研究科単位で算出不能なため、学部との合計	
		教員1人当たり研究費等		477千円	477千円	—千円	—千円	—千円	—千円		
		共同研究費等		1,210千円	24,313千円	—千円	—千円	—千円	—千円		
		図書購入費	73,834千円	74,186千円	74,000千円	—千円	—千円	—千円	—千円		
	設備購入費	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	※図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。	
学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次					
	40千円	40千円	千円	千円	千円	千円					
学生納付金以外の維持方法の概要		医療収入、補助金収入、寄付金収入等									
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称 関西医科大学										
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
			年	人	年次人	人		倍			
	医学部医学科		6	127	0	722	学士(医学)	1.00	昭和27年度	大阪府枚方市新町二丁目5番5号	
	医学研究科(博士課程)医学専攻		4	50	0	200	博士(医学)	0.64	昭和36年度	大阪府枚方市新町二丁目5番1号	
	看護学部看護学科		4	100	0	400	学士(看護学)	1.00	平成30年度	大阪府枚方市新町二丁目2番2号	
看護学研究科看護学専攻博士前期課程		2	20	0	40	修士(看護学)	0.60	平成30年度	大阪府枚方市新町二丁目2番2号		
看護学研究科看護学専攻博士後期課程		3	5	0	15	博士(看護学)	0.87	平成30年度	大阪府枚方市新町二丁目2番2号		

附属施設の概要	<p>名称 関西医科大学附属病院 目的 診療及び臨床実習 所在地 大阪府枚方市新町2丁目3番1号 設置年月 平成18年1月1日 規模等31,612㎡ 建物延面積71,851㎡ 病床数751床</p>	<p>名称 関西医科大学総合医療センター 目的 診療及び臨床実習 所在地 大阪府守口市文園町10番15号 設置年月 昭和7年4月9日 規模等21,415㎡ 建物延面積45,780㎡ 病床数477床</p>	
	<p>名称 関西医科大学香里病院 目的 診療及び臨床実習 所在地 大阪府寝屋川市香里本通町8番45号 設置年月 平成22年7月1日 規模等4,033㎡ 建物延面積15,180㎡ 病床数199床</p>	<p>名称 関西医科大学くずは病院 目的 診療及び臨床実習 所在地 大阪府枚方市楠葉花園町4番1号 設置年月 平成30年1月1日 規模等3,312㎡ 建物延面積8,806㎡ 病床数94床</p>	
	<p>名称 附属生命医学研究所 目的 医学研究 所在地 大阪府枚方市新町2丁目5番1号 設置年月 平成18年8月1日 規模等4,487.75㎡</p>		

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要

(医学研究科医科学専攻修士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	大学院総合講義	1①②(通)	1			○			4					兼1	オムニバス
	医科学概論Ⅰ	1①	2			○			7	1				兼5	オムニバス
	医科学概論Ⅱ	1①	1			○			1						
	医科学概論Ⅲ	1②③(通)	2			○			3					兼9	オムニバス
	医学英語	1①	2			○			2					兼2	オムニバス
小計(5科目)			8	0	0	-			10	1	0	0	0	兼17	
先端医学分野	再生医学	1②③(通)		2		○			2						
	免疫・アレルギー	1②③(通)		2		○				1					
	神経科学	1②③(通)		2		○			3					兼8	オムニバス
	創薬科学	1②③(通)		2		○			1					兼8	オムニバス
	がん生物学	1②③(通)		2		○			4					兼6	オムニバス
	特別研究科目	先端医学特別研究	1②③、2(通)		10			○		15	3				共同
小計(6科目)			-	0	20	0	-			15	3	0	0	0	兼21
ゲノム医学分野	生命情報処理学	1②③(通)		2		○			2		1				オムニバス
	ゲノム医科学	1②③(通)		2		○			2	1	1			兼5	オムニバス
	統計遺伝学	2①		2		○			1		1				共同
	ゲノム解析学	2①		2		○			1		1			兼1	オムニバス、共同
	特別研究科目	ゲノム医学特別研究	1②③、2(通)		10			○		4		1			共同
小計(5科目)			-	0	18	0	-			5	1	1	0	0	兼6
医用工学分野	医工学生活支援概論	1②③(通)		2		○			1					兼9	オムニバス
	生体計測工学	1②③(通)		2		○			1	1				兼3	オムニバス
	社会連携医工学	1②③(通)		2		○			1						
	臨床病態治療学	2①		2		○			2					兼7	オムニバス
	スポーツ医学	2①		2		○			1					兼1	オムニバス
特別研究科目	医用工学特別研究	1②③、2(通)		10			○		4	1				共同	
小計(6科目)			-	0	20	0	-			4	1	0	0	0	兼20
合計(22科目)			-	8	58	0	-			24	4	1	0	0	兼55
学位又は称号		修士(医科学)		学位又は学科の分野				医学関係							
卒業要件及び履修方法										授業期間等					
計30単位以上取得、修士論文審査、最終試験に合格										1学年の学期区分					3学期
先端医学分野：同分野の講義科目から6単位以上、同分野以外の講義科目から6単位以上を含め12単位以上を履修すること。										1学期の授業期間					15週
ゲノム医学分野：同分野の講義科目から8単位、同分野以外の講義科目から2単位以上を含め12単位以上を履修すること。										1時限の授業時間					90分
医用工学分野：同分野の講義科目から8単位以上、同分野以外の講義科目から2単位以上を含め12単位以上を履修すること。															

(注)
 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行うとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の取定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要

(医学研究科医科学専攻修士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目	講義科目	大学院総合講義	1①②(通)	1			○			4					兼1	オムニバス	
	医科学概論Ⅰ	1①	2				○			7	1				兼5	オムニバス	
	医科学概論Ⅱ	1①	1				○			1							
	医科学概論Ⅲ	1②③(通)	2				○			3					兼9	オムニバス	
	医学英語	1①	2				○			2					兼2	オムニバス	
	小計(5科目)			8	0	0		—		10	1	0	0	0	兼17		
専門科目	先端医科学分野	講義科目	再生医学	1②③(通)		2		○			2						
		免疫・アレルギー	1②③(通)		2			○			1						
		神経科学	1②③(通)		2				○		3				兼8	オムニバス	
		創薬科学	1②③(通)		2				○		1				兼8	オムニバス	
		がん生物学	1②③(通)		2				○		5				兼6	オムニバス	
		特別研究科目	先端医科学特別研究	1②③、2(通)		10				○		15	3				共同
	小計(6科目)		—	0	20	0		—		16	3	0	0	0	兼21		
	ゲノム医科学分野	講義科目	生命情報処理学	1②③(通)		2			○			2		1			オムニバス
		ゲノム医科学	1②③(通)		2				○			2	1	1		兼5	オムニバス
		統計遺伝学	2①		2				○			1		1			共同
		ゲノム解析学	2①		2				○			1		1		兼1	オムニバス、共同
特別研究科目		ゲノム医科学特別研究	1②③、2(通)		10				○		4		1			共同	
小計(5科目)		—	0	18	0		—		5	1	1	0	0	兼6			
医用工学分野	講義科目	医工学生活支援概論	1②③(通)		2			○			1				兼10	オムニバス	
		生体計測工学	1②③(通)		2			○			1	1			兼3	オムニバス	
		社会連携医工学	1②③(通)		2				○			1					
		臨床病態治療学	2①		2				○			2			兼7	オムニバス	
		スポーツ医学	2①		2				○			1			兼1	オムニバス	
	特別研究科目	医用工学特別研究	1②③、2(通)		10				○		4	1				共同	
小計(6科目)		—	0	20	0		—		4	1	0	0	0	兼21			
合計(22科目)			—	8	58	0		—		25	4	1	0	0	兼56		

学位又は称号	修士(医科学)	学位又は学科の分野	医学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
計30単位以上取得、修士論文審査、最終試験に合格		1学年の学期区分	
先端医科学分野：同分野の講義科目から6単位以上、同分野以外の講義科目から6単位以上を含め12単位以上を履修すること。		3学期	
ゲノム医科学分野：同分野の講義科目から8単位、同分野以外の講義科目から2単位以上を含め12単位以上を履修すること。		1学期の授業期間	
医用工学分野：同分野の講義科目から8単位以上、同分野以外の講義科目から2単位以上を含め12単位以上を履修すること。		15週	
		1時限の授業時間	
		90分	

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の取容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科医科学専攻修士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	必修科目	<p>研究成果が社会と密接に繋がる現代においては、研究倫理の概念と具体的な内容に関する知識は、研究に携わるものにとって必須のものであり、さらに医学領域での研究を進めるにあたっては、医学倫理についての深い理解が必要となる。また、急速な情報社会の中で、研究に必要な情報を如何に迅速かつ正確に取得し利用するかは、研究者にとって重要な能力となる。本総合講義では、これら研究を進めるにあたって必要な知識を習得すると共に、著名な研究者の講演から、研究に対する姿勢を学ぶことを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (1 木梨達雄／1回) 研究を始めるにあたって、研究倫理、科学的研究方法、データストレージについて学ぶ。 (44 仲野俊成／1回) 大学情報センター利用講習会(学内情報環境の研究への有効利用や情報セキュリティについて学ぶ) (9 西山利正／1回) 産業廃棄物と一般廃棄物、感染性と非感染性など廃棄物処理の流れを学ぶ。 (2 葛幸治／1回) 医学倫理審査講習会(各種倫理指針、コンセンサスについて学ぶ) (7 人見浩史／4回) プレゼンテーションの仕方を学ぶ。図書館利用／文献検索講習会(文献検索や論文執筆に役立つツールについて学ぶ)。大学院企画セミナー1、2として、著名な研究者の講義を聴講し、最先端の技術を学ぶ。</p>	オムニバス
		<p>専門領域を学ぶために必須の人体の構造と機能についての基礎知識を身につける。この中には、細胞機能を担う分子についての分子レベルの知識、細胞内小器官とそのはたらきについての細胞レベルの知識、さまざまな細胞の機能的な集合体である組織レベルの知識、さらに人体固有の解剖学的知識を含む。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (1 木梨達雄、9 西山利正／各1回) 感染症と免疫の仕組みについて (14 平野伸二、26 松田達志、61 武藤恵／各1回) 細胞の構造、細胞分化、DNAの複製と遺伝子発現、情報伝達、膜電位とイオンチャネル (62 林美樹夫／1回) 消化管、肝胆膵の構造と機能 (63 小原圭吾／1回) 呼吸器の構造と機能、血球(赤血球、白血球、血小板、血液タンパク質) (59 平井希俊／1回) 心臓と血管の構造と機能、心電図、血圧 (7 人見浩史／2回) 腎臓の構造と機能、酸塩基平衡、まとめの講義 (56 上田康雅／1回) 自律神経と内分泌系による内臓機能の調節機構 (2 北田容章／2回) 骨と筋肉の構造と機能について (3 中村加枝／1回) 神経系の構造と機能、脳の高次機能、脳波 (5 中邨智之／1回) 薬が効くしくみ</p>	オムニバス
		<p>専門領域での理解を深めるために必要な、分子生物学的な基礎的知識を身につける。この中には、①原核生物および真核生物における遺伝子の転写翻訳、これらの調節メカニズム、②ゲノムの構造と複製メカニズム、③遺伝と進化のメカニズム、さらには、④上記に対する調査研究手法の基礎的知識を含んでいる。</p>	

共通科目	必修科目	医科学概論Ⅲ	<p>医科学研究を行う上で必要な主要な疾患についての基礎知識を身につけるとともに、現代の医学の到達点と限界、医療上のニーズがどこにあるかを理解することを目的とする。臨床各領域の代表的疾患について、病態、症状、身体所見、検査所見、治療法の概要を学ぶ。具体的な臨床事例を用いてさまざまな疾患の診断から治療に至るまでの流れを学習する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (5 中邨智之／1回)循環器疾患について (64 塚口裕康／2回)循環器疾患、糖尿病・代謝・内分泌疾患について (50 木下秀文／1回)腎・泌尿器疾患について (65 池浦司／2回)消化管疾患について (22 倉田宝保／1回)呼吸器疾患について (46 伊藤量基／1回)血液疾患について (34 宮下修行／1回)感染症と自己免疫疾患について (33 菅俊光／1回)運動器・整形外科疾患 (25 杉江知治／1回)乳腺外科疾患 (68 村田紘未／1回)産婦人科疾患 (66 神田晃／1回)耳鼻咽喉科科疾患</p>	オムニバス	
		医学英語	<p>医科学のプロフェッショナルとして国際的に活躍しキャリアを形成するために必要な医学英語およびメディカルコミュニケーションに関する基礎知識を身につける。特に、英語による情報収集および英語による研究成果発表に必要な知識とノウハウを身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (2 蔦幸治／3回)医学英語論文を読む。 (85 Raoul Breugelmans／9回)医学英語の必要性、医学英語の基礎と医学専門用語の構造。英語による研究成果発表の種類。メディカルライティングの決まり事等について。 (9 西山利正、75三島伸介(共同)／3回)臨床の現場で使う英語。</p>	オムニバス 一部共同	
専門科目	先端医学分野	講義科目	再生医学	<p>再生医学に関して、最新の知識と研究の動向を学ぶ。再生医学の総論および各論から構成される授業により、再生医学研究の意義を理解する。再生医療における独創的な研究を立案する過程、遂行する技術を知る。再生医学に関する広い視点もち、医学の発展に寄与することができる研究者の育成を目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (7 人見浩史／8回)再生医学総論、疾患特異的iPS細胞、幹細胞の臨床応用、iPS細胞による腎臓再生医療・血液疾患治療・骨格筋疾患治療・内分泌代謝治療・免疫疾患治療 (17 服部文幸／7回)組織幹細胞と分化、iPS細胞による発生学・薬理学研究、iPS細胞と創薬、iPS細胞と食品・化粧品、iPS細胞の今と未来 AI&ロボティクス、iPS細胞による心臓再生医療・肝臓再生医療</p>	オムニバス
			免疫・アレルギー	<p>免疫系は感染の脅威から生命を守る大切な仕組みである一方、過剰な免疫反応はアレルギーや自己免疫疾患を引き起こす。さらに近年の研究からは、肥満や高血圧といった生活習慣病の背景に慢性的な免疫反応が存在することも明らかにされつつある。本科目では、免疫系を構成する組織と細胞についての基礎知識を身に付けた上で、免疫系の認識機構の成立メカニズム、自己寛容成立の機構、自然免疫・獲得免疫における多様な免疫応答の分子基盤を理解する。さらに、免疫系の異常に伴う免疫不全症・アレルギー・自己免疫疾患など多様な病態とその発症機構を理解する。</p>	

専 門 科 目	先 端 医 学 分 野	講 義 科 目	神経科学	<p>最後のブラックボックスと言われた脳であるが、遺伝子操作や画像処理等の新たな技術・計算論がこれまでの知見と融合することにより、その機能がついに明らかになってきた。本科目では研究の最先端に行く研究者と、それぞれの分野について熱く語る。さらに、精神神経疾患の治療と研究に携わっている臨床の最前線についても学ぶ。</p> <p>オムニバス方式／全15回) (3 中村加枝／4回) 神経概論、意思決定と神経伝達物質、計算論的神経科学 (21 小早川令子／2回) 神経科学の新技術（光遺伝学・ファイバーフォトメトリ等）、環境変化と脳 (63 小原圭吾／1回) 記憶と学習 (55 安田正治／1回) 情動と行動 (60 三木貴雄／1回) サークアディアンリズム (42 玉田篤史／1回) 脳の発生・発達 (8 六車恵子／1回) 多能性幹細胞を使った神経科学 (69 倉岡康治／1回) 社会神経科学 (47 金子鋭／1回) 神経変性疾患の基礎と臨床 (49 加藤正樹／1回) Translational Psychiatry (81 森公彦／1回) リハビリテーション神経科学</p>	オムニバス
			創薬科学	<p>基礎研究から実用化までを実際の事例を基に学ぶ。シーズの発見、臨床試験の準備、技術の移転、ライセンス化、市場販売など、大学発ベンチャーに向けて何が必要かを考える。創薬プロセスにおける薬事と知財(特許など)の連結を進める戦略的方法論を理解し、創薬研究を目的としたアカデミアの貢献から産学連携のあり方を考えられる人材の育成を目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (4 小林拓也／7回) 医薬とは何か、医薬が世に出るまで、変容する抗がん剤の科学、商業化と起業家精神、精神病治療薬、鎮痛剤、アカデミア創薬の展望 (39 松村伸治／1回) アカデミアにおける創薬 (40 片野泰代／1回) 創薬を支える新技術 (57 中川学／1回) 天然物からの創薬 (58 寿野良二／1回) 創薬研究と非臨床試験 (71 西田和彦／1回) 抗体医薬とゲノム創薬 (72 井上明俊／1回) 抗生物質と抗ウイルス剤 (70 前野寛大／1回) 臨床試験の準備 (73 船津宣雄／1回) 技術移転</p>	オムニバス
			がん生物学	<p>近年の生命医学研究の進展により導入された研究手法の数々は、種々の基礎研究分野に革命的な進展をもたらしている。とりわけ、シングル・セルRNAシーケンス法、細胞系譜追跡法、オルガノイド培養、多色4次元イメージング、組織の透明化法の開発などは、発生生物学、幹細胞生物学、腫瘍生物学、再生医学等において非常に有用であり、またこれらの研究分野はお互いに密接に関連していることから、近年悪性腫瘍に対する基礎的理解は飛躍的に深まったと言ってよい。また同時にこれらは分子標的薬開発を通じてがん治療開発に大いに貢献している。</p> <p>本科目では、こうした近年の生命医学研究において導入された新しい研究手法を用いて得られた基礎生物学的知見ががん生物学、がん治療に具体的にどのような進展をもたらしつつあるかについて総論、各論に分けて議論する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (2 蔦幸治／4回) がん形態学、がんの増殖／進展、がんの細胞系譜解析、乳がん (51 佐竹悠良／2回) 抗がん剤、分子標的療法 (74 上野孝治／1回) がんウイルス (41 熊野恵城／2回) 白血病(基礎)、肺がん(基礎) (46 伊藤量基／1回) 白血病(がん免疫) (31 関本貢嗣／1回) 大腸がん (23 海堀昌樹／1回) 肝・胆道腫瘍 (24 里井壮平／1回) 膵がん (22 倉田宝保／1回) 肺がん(臨床) (86 岩田亮一／1回) 脳腫瘍</p>	オムニバス
			先端医科学 特別研究	<p>先端医科学分野の専門領域の教員の指導のもと、研究課題を探究し、研究マインドを涵養しながら研究計画書を作成し、研究を実施し、修士論文を執筆するという一連のプロセスを身につける。</p> <p>(1 木梨達雄) 免疫システムは免疫細胞がもつ活発な移動や接着機能を重要な基盤として、異物を認識し排除する機能をもつ。免疫細胞の動態制御機構を分子・細胞・個体レベルで明らかにする手法の修得・開発の指導を行いながら、生理的制御の理解を深め、その破綻による免疫不全や過剰な免疫細胞の集積を特徴とする自己免疫疾患、アレルギーなどの免疫病態解明や新たな治療開発の指導を行う。</p>	共同

<p>専門科目</p>	<p>先端医学分野</p>	<p>特別研究科目</p>	<p>先端医科学 特別研究</p> <p>(2 北田容章) 生体内に存在する幹・前駆細胞の正常・病態における動態を追跡し、着目した細胞が、いつ・どこで・どんな細胞として機能するかを把握し、その細胞をどうすれば疾患治療に役立てることが可能かについて、再生が不可能な動物や再生が可能な動物を用いて明らかにすることを目的とする研究指導を行う。</p> <p>(3 中村加枝) 情動や注意、社会的環境などが行動を変化させる神経メカニズムを明らかにするための、実験の計画、遂行、データの解釈、論文執筆について指導を行う。</p> <p>(4 小林拓也) 蛋白質科学（構造生物学、生化学など）と神経科学的アプローチにより、蛋白質分子の機能を原子レベルから個体レベルまで解析する。生体における蛋白質分子の生理的及び病態生理的な役割を解明し、「くすり」の標的となる蛋白質分子を制御する化学物質・分子を探索・設計することを目指す研究について指導を行う。</p> <p>(5 中邨智之) 細胞外マトリックスの形成メカニズム、機能、および疾患における役割を分子レベルで明らかにし、新たな組織再生技術開発を目指す研究について指導を行う。</p> <p>(7 人見浩史) 再生医学に関して、最新の知識と研究の動向を学び、再生医学研究の意義を理解する。自ら再生医学研究を立案し、遂行するための基本的技術を習得する。再生医学の実践として、iPS細胞を含む多能性幹細胞から目的とする臓器の細胞へ分化誘導する研究を指導する。疾患特異的iPS細胞を用いた病態解明や新規治療法開発などの研究についても指導を行う。</p> <p>(8 六車恵子) ヒトiPS細胞を用いた応用研究の「これまでと今」を知ることにより、基礎医学研究の重要性を学ぶことを目指す。また、患者と臨床医の協力の下で新規治療法開発を進めることを修得する。</p> <p>(10 赤根敦) 法科学分野における基礎知識と技能を身につける。この中には、生体成分や薬毒物の微量鑑定、DNA型鑑定に関する基礎知識、基礎技術および機器の操作法の修得を含む。これらの知識・技術を駆使する研究について、企画・遂行・考察・論文作成の技術を学習する。解剖介助の知識及び技術も修得する。</p> <p>(14 平野伸二) 哺乳類の発生における形態形成や神経回路形成機構ならびに、それらの異常によって引き起こされる病態や発達障害に関する研究について指導を行う。</p> <p>(17 服部文幸) 本特別研究の出発点は各人が興味を有する臓器や疾患である。臓器再生医療や新しい疾患治療方法、また新しい創薬システムの構築を目指して、基礎情報の収集や分析、そこから導き出される仮説の立案と研究方法について探求し、考察を深める。研究成果を得るためだけでなく、将来を輝かせるために自らをイノベーション（革新）することを目指す。</p> <p>(20 廣田喜一) 生体機能維持における酸素またその代謝物の役割をエネルギー代謝・細胞内シグナル伝達の観点から転写因子低酸素誘導性因子1 (HIF-1)の解析を手がかりに理解し、疾患の病態の解明、治療法確立を目指した研究を遂行する能力の習得を達成目標とする。この目的を達成するために必要な知識を得る手段、基本的な実験手技の習得の指導を行う。</p> <p>(21 小早川令子) 分子生物学・生化学・生理学・行動学など様々な研究手法を駆使して、外界からの刺激に対して哺乳類の脳が適切な情動やそれに伴う行動および生理応答を誘発するメカニズムを解明するとともに、情動や生理応答を望ましく制御する新たな医療技術の開発を目指す研究を行う。</p> <p>(23 海堀昌樹) 消化器外科領域における、手術侵襲作用機構の解明、また侵襲軽減効果の検討、各種癌治療における癌転移進展メカニズムの解明、および手術療法とDDSを含めた化学療法やウイルス療法開発を目指す研究について指導を行う。</p> <p>(24 里井壮平) 臨床に直結した研究テーマに対して、臨床検体を用いて治療法の確立や病態解明を行う過程を学習し、新規知見を英文にまとめて世界に発信することができる研究者の育成を目指す。国内ならびに海外の施設との共同研究を通じて、質の高い臨床研究の立案・計画・実施・解析・論文作成を行う。</p> <p>(25 杉江知治) 分子生物学や病理学的手法をもとに、乳がん免疫微小環境における腫瘍と免疫細胞の相互作用を解明する。また、これらの基礎研究から得られた知見をもとに臨床応用をめざした橋渡し研究を立案・計画・実施できる医科学研究者の育成を目指す。</p> <p>(26 松田達志) 細胞内シグナル伝達の視点から、免疫担当細胞の分化過程ならびに機能発現の分子基盤解明を目指す。また、これら基礎研究から得られた知見に基づき、難治性免疫疾患を標的とした新規の免疫制御技術の開発に取り組む。</p> <p>(27 徳弘圭造) ゲノム編集技術を用いた研究手法を駆使して、疾患の分子メカニズムの解明や新しい治療法の開発に関する研究の指導を行う。</p> <p>(28 李成一) 動物の福祉向上および実験動物における種々の疾病の診断・治療・予防に関する知識を習得し、問題解決に応用できる能力を養う。また発生工学技術を駆使した遺伝子改変動物や疾患モデル動物の作製を理解し、その分子生物学的、生理学または病理学等の解析について精通した研究者の育成を目指す。</p>	<p>共同</p>
-------------	---------------	---------------	--	-----------

専門科目 ゲノム医学分野 講義科目	生命情報処理学	<p>本講義では、最先端のシーケンサーやコンピューター処理速度の向上などに伴い生成される医学生命ビッグデータを取り扱う際に必要となる情報処理技術を体系的に学習する。基礎的なプログラムやアルゴリズムから、人工知能に至る応用まで、幅広い分野を網羅し、将来のバイオインフォマティクス技術者やデータサイエンティストを養成する。</p> <p>(共同、一部オムニバス／全15回) (4 小林拓也／1回) 立体構造決定、タンパク質二次構造予測、立体構造予測、分子間相互作用解析 (19 日笠幸一郎、30 三澤計治／14回) 共同</p>	共同 一部 オムニバス
	ゲノム医科学	<p>近年のゲノム解析技術の飛躍的な進歩により、ゲノム情報に基づく個別化医療「プレジジョン・メデシシ (Precision Medicine)」の実用化に向けた体制整備が急速に進んでいる。本講義では、ヒトゲノム・遺伝学の基礎、および、ゲノム上に生じる変異によって引き起こされる多様な表現型(疾患)との関連について理解を深め、今後益々発展が期待されるゲノム医療に必要な知識を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (19 日笠幸一郎／5回) ヒトゲノムの基礎、疾患のゲノム解析、がんゲノム医療、バイオバンクとデータベース、オミックス解析 (50 木下秀文、64 塚口裕康／各1回) 疾患のゲノム解析 (43 橋谷田真樹／1回) 法医学とゲノム解析 (18 甲田勝康／1回) 疫学統計 (44 仲野俊成／1回) 医療情報 (79 佐藤智佳／2回) 遺伝カウンセリング (27 徳弘圭造／1回) ゲノム編集技術 (30 三澤計治／2回) 疫学研究と予防医学、個人情報と研究対象者の保護</p>	オムニバス
	統計遺伝学	<p>統計遺伝学の理論・手法・応用のために必要な知識と数学的基礎を学ぶ。遺伝学的解析手法の必須概念である、統計量、比較、順序、距離、次元、空間、グラフ、確率・尤度、数え上げなどを取り上げ、多岐に渡るヒトゲノム解析諸手法を正確に理解するための基礎を養うとともに、統計遺伝学の理論研究に取り組むための素養を身につける。</p>	共同
	ゲノム解析学	<p>本講義の目的は、ゲノム科学の発展が21世紀の医学研究や医療にいかなるインパクトを与えるのかを理解することにある。生命科学の歴史の中でゲノム科学に携わっている研究者の研究成果が何を生み出してきたか、また将来何を生み出しうるのかを理解し、またその医学への応用について学ぶことを最重要目標とする。「予防医学の時代」と言われている21世紀の医学・医療の中でゲノム解析の果たす役割や今後のゲノム医科学のあるべき姿を講義を通して考え、理解を深める。ゲノム医科学の基礎的かつ主要な解析技術と方法論について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式、一部共同／全15回) (19 日笠幸一郎／6回) 次世代・第3世代シーケンサ、全ゲノム、エキソーム、ターゲットシーケンシング、RNA-seq解析、エピゲノムと染色体構造の解析手法、人工知能とゲノム解析、ゲノム解析ツール、ゲノムワイド関連解析 (30 三澤計治／6回) ゲノム配列決定、配列多重アライメント法、ホモロジー検索法、多型マーカーとハプロタイプ推定、集団構造化と主成分分析、系統樹と自然選択 (76 栗川知己／1回) 機械学習 (19 日笠幸一郎、30 三澤計治(共同)／2回) 一細胞解析手法、ゲノム配列決定</p>	オムニバス 一部共同

	ゲノム医学分野	特別研究科目	<p>ゲノム医学分野の専門領域の教員の指導のもと、研究課題を探究し、研究マインドを涵養しながら研究計画書を作成し、研究を実施し、修士論文を執筆するという一連のプロセスを身につける。</p> <p>(2) 葛幸治) 臨床現場におけるがんゲノム医療の遺伝子情報源は手術や生検の手技で採取された後にホルマリン固定、パラフィン包埋切片 (FFPE) が大多数を占める。最適なFFPEを作製するには固定前、固定、固定後工程で様々な影響因子を理解する必要がある。DNAの断片化率等を指標として各工程の最適解を理解し遺伝子診断用サンプル作製工程に精通した研究者の育成を目指す。</p> <p>(18 甲田勝康) 疫学を用いて、人の健康に影響する種々の要因を分析し、その中から利する要因と害する要因を特定し、前者を減弱し、後者を増強させるための対策とその評価を行う。具体的には、人を対象とした大規模疫学調査のデータや比較的小規模な臨床データ等の取扱いを通して、研究倫理・統計解析・結果の解釈・論文執筆の技術についての研究指導を行う。</p> <p>(19 日笠幸一郎) メンデル型遺伝病や多因子性疾患の発症や予後に関連する遺伝的な因子を探索する研究についての指導を行う。</p> <p>(22 倉田宝保) 悪性腫瘍、特に胸部腫瘍に対する薬物治療に焦点をあてた研究を行う。基礎的研究としては悪性腫瘍のゲノム解析を実施し、薬物治療の効果との関連や有害事象の予測などを検討する。</p> <p>(30 三澤計治) 疾患関連遺伝子を含むヒトゲノム多様性の研究や、新しい統計学的検定法の開発に関する研究について指導を行う。</p>	共同
専門科目	医用工学分野	講義科目	<p>人としての活動を支えるためには、快・不快情動や痛み、老化などの様々な生命現象を捉えた上で、背景にある個人的・社会的ニーズを満足させるような生活支援が求められる。生活支援戦略の未来創生には医学と工学の融合が必要不可欠となっている。本コースでは、生活支援の医療現場で展開されている実践知識を修得し、探求されるべき課題を見出すことを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1) 長谷公隆/5回) 筋収縮機構、脊髄反射、立位姿勢制御、中枢パターン生成器、最適フィードバック制御、感覚運動学習、運動プログラム理論、動的システム理論、エラー学習、エラーレス学習、3次元動作解析、床反力、筋シナジー、機械学習、データマイニング、運動学習、運動制御、前頭前野、頭頂連合野、小脳、高次脳機能障害、ICFモデル、アシスティブテクノロジー、ICTツール、生活支援</p> <p>(36 佐藤春彦/1回) ウェアラブル機器、障害児、日常生活姿勢、信号処理、認識・識別システム</p> <p>(81 森公彦/1回) 運動学習、運動構成要素、信頼度割り当て、事後効果、至適アシスト</p> <p>(53 浅井剛/1回) 歩行支援、ロボット技術、センサリング、IoT、機械学習</p> <p>(78 福島八枝子/1回) 運動器診断、競技特性、コンデショニング、トレーニング、障害予防</p> <p>(54 三木恵美/2回) 緩和ケア、トータルペイン、QOL、ADL/IADL、Advanced Care Planning (ACP)、地域包括ケアシステム、介護予防・日常生活支援総合事業、在宅医療・介護連携推進事業、ICF、ケアマネジメント</p> <p>(45 福元喜啓/1回) 介護予防、転倒予防、筋内脂肪、歩行解析、スクリーニング</p> <p>(82 脇田正徳/1回) 地域包括ケアシステム、フレイル/サルコペニア、認知症、栄養管理、転倒予防</p> <p>(37 中野治郎/1回) 慢性痛、温熱療法、電気刺激、低出力レーザー、超音波</p> <p>(38 池添冬芽/1回) 加齢変化、サルコペニア、筋力トレーニング、高齢者の歩行特性、生活機能と身体活動</p>	オムニバス

専 門 科 目 医 用 工 学 分 野 講 義 科 目	生体計測工学	<p>生体を計測する基本原理としては、光、電気、放射線、力学的振動などさまざまな物理現象があり、医用工学領域を研究対象とする場合には、これらの技術を網羅的かつ体系的に理解することが重要である。そこで、本科目ではこうした生体計測工学の基礎(各種生体信号の計測技術、信号解析技術)から実際の臨床で用いられている各種計測機器(生理学検査機器・画像診断装置など)の特性まで幅広く講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (15 北脇知己/10回)生体計測概論、生体物理学、生体計測信号の解析技術、身近な生体計測機器、生理学検査、生体計測・生体工学装置、運動機器計測・節電、生体計測装置の開発、まとめの講義 (29 楠本邦子/1回)放射線・光を用いた生体計測技術 (87 横井豊彦/1回)検査機器:超音波診断装置 (66 神田晃/1回)検査機器:生化学検査 (67 黒川弘晶/1回)画像診断装置(CT,MRI 他) (80 武川英樹/1回)医学物理(放射線管理)</p>	オムニバス
	社会連携医工学	<p>近年の健康意識の向上、医学的知識の飛躍的な増大とテクノロジーの進歩から、ヘルスケア分野における医工融合の促進と社会実装が期待されている。本科目では、医学的見地からみたヘルスケアの理論を理解し、ヘルスケアへのテクノロジーの応用に必要な工学的知識、さらに新たな知見や技術を社会実装するために必要な関連法規やマーケティング、マネジメント手法を学ぶ。これらに関連づけて学修することにより、ヘルスケア分野での医工融合という社会的ニーズに応えられる能力を身につける。</p>	
	臨床病態治療学	<p>生活を脅かし、健康寿命短縮の直接的あるいは間接的な原因となる疾病や外傷の病態を理解し、エビデンスに基づいた治療戦略について学ぶとともに、各分野における臨床研究の概要と課題を把握する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (① 長谷公隆/5回)国際生活機能分類、機能障害、活動制限、参加制約、チーム医療、歩行誘発野、中枢パターン生成器、運動麻痺、リズム運動、歩行訓練、脳血管障害、上位ニューロン徴候、片麻痺、神経筋再教育、感覚運動統合、末梢神経損傷、運動単位、電気診断、神経再生、パーキンソン病、筋疾患、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、運動療法 (33 菅俊光/3回)四肢麻痺、対麻痺、高位診断、機能的予後、環境整備、変形性関節症、関節リウマチ、脊椎疾患、切断、義肢装具、脳血管障害、誤嚥性肺炎、不顕性誤嚥、嚥下評価、嚥下訓練 (③ 木村穰/1回)虚血性心疾患、心不全、循環動態、薬物療法、運動療法 (48 吉村匡史/1回)認知機能低下、行動・心理症状(BPSD)、抗認知症薬、非薬物療法、認知症予防 (84 橋本晋吾/1回)注意障害、半側空間無視、視覚認知障害、遂行機能障害、認知リハビリテーション (32 中本達夫/1回)運動器慢性疼痛、複合性局所疼痛症候群、末梢性感作、中枢性感作、運動療法 (52 松島佳苗/1回)自閉スペクトラム症、注意欠如・多動障害、限局性学習障害、協調運動、感覚処理 (81 森公彦/1回)呼吸不全、気道クリアランス、全身性炎症、早期運動、運動耐容能 (83 田頭悟志/1回)高血圧、脂質異常症、糖尿病、レジスタンストレーニング、有酸素運動</p>	オムニバス
	スポーツ医学	<p>スポーツ医学として、運動、スポーツの機能的意義、実施方法、評価方法を学ぶ。その基礎となる運動理論に加えて、脳機能やインスリン抵抗性の改善など生体機能への効果を理解する。さらに、運動、スポーツの社会的意義、ヘルスリテラシーとしての価値を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (③ 木村穰/11回)スポーツ医科学概論、スポーツ傷害、スポーツ心理学、スポーツと社会、スポーツビジネス、障害者スポーツ医学、スポーツ医学内科系、スポーツと女性、スポーツ栄養、スポーツ医学整形外科系、高齢者スポーツ医学 (77 黒瀬聖司/4回)スポーツと生体機能、トレーニング理論と効果、オーバートレーニング、バイオメカニクス</p>	オムニバス

専門科目	医用工学分野	特別研究科目	医用工学特別研究	<p>医用工学分野の専門領域の教員の指導のもと、研究課題を探究し、研究マインドを涵養しながら研究計画書を作成し、研究を実施し、修士論文を執筆するという一連のプロセスを身につける。</p> <p>(11 齋藤貴徳) これまでの電気生理学検査では刺激や記録が困難であった深部末梢神経や脊髄の機能を測定するため、新たに開発された超伝導量子干渉素子 (SQUID) 磁気センサーを用いた神経機能測定法を導入し、さまざまな疾患への応用を研究する。</p> <p>(① 長谷公隆) 活動の障害 (activity disorders) に関わる病態を理解し、機能評価を通して広くリハビリテーション治療のあり方を把握し、人間工学的なアプローチを通じて生活に関わる問題を解決する方略を創生できる研究者の育成を目指す。</p> <p>(15 北脇知己) 本研究室では、生体計測装置や運動状態を計測する装置を用いて生体信号を収集し、現象をモデル化して数理的な解析を行うことで、生体現象の解明を目指した研究を実施する。研究課題としては、数理モデルの構築やデータ解析などを主とし、近年多様化する生物統計学についても研究対象とする。</p> <p>(③ 木村 穰) ヘルスケアを運動、栄養、心理などの臨床医学のみならず行動科学、医用工学も含めて理解します。またMBA的要素としてのマーケティング、企業連携などのビジネス戦略、イノベティブな思考、実践まで幅広い能力、ネットワーク構築の修得を目指す。</p> <p>(29 楠本邦子) 数百eV～数十keVのX線を用いたイメージング、マイクロX線CT、X線吸収微細構造分析などの手法を用い、生命現象を様々な視点から計測・観察するための新しい手法の開発に関する研究について指導を行う。細胞から生体・医療材料までを対象とし、X線と物質の相互作用を物理原理に基づいて考えられる研究者・技術者の育成を目指す。</p>	共同
------	--------	--------	----------	--	----

(注)

1
2

—

学校法人 関西医科大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
関西医科大学			
医学部			
医学科	127	-	722
看護学部			
看護学科	100	-	400
<hr/>			
計	227	-	1122
関西医科大学大学院			
医学研究科			
医科学専攻 (D)	50	-	200
看護学研究科			
看護学専攻 (M)	20	-	40
看護学専攻 (D)	5	-	15
<hr/>			
計	75	-	255
関西医科大学附属看護専門学校			
看護学科	0	-	0
<small>平成31年度 学生募集停止</small>			
<hr/>			
計	0	-	0

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
関西医科大学				
医学部				
医学科	127	-	732	
看護学部				
看護学科	100	-	400	
<u>リハビリテーション学部</u>				<small>学部の設置（認可申請）</small>
理学療法学科	<u>60</u>	-	<u>240</u>	
作業療法学科	<u>40</u>	-	<u>160</u>	
<hr/>				
計	<u>327</u>	-	<u>1532</u>	
関西医科大学大学院				
医学研究科				
<u>医科学専攻 (M)</u>	<u>8</u>	-	<u>16</u>	<small>研究科の専攻の設置（認可申請）</small>
<u>医学専攻 (D)</u>	<u>50</u>	-	<u>200</u>	<small>専攻名称変更（令和2年4月届出予定）</small>
看護学研究科				
看護学専攻 (M)	20	-	40	
看護学専攻 (D)	5	-	15	
<hr/>				
計	<u>83</u>	-	<u>271</u>	